

わたし、あなた、そしてみんなとのキャッチボール

ねらい

現代社会は機械化が進み、人と接する機会が減少してきているが、よりよい人間関係を保っていくためには、人と人が会って情報や意見や気持ちを伝え合う能力が不可欠である。今後さらに世界的な規模での人の交流や移動が進むことを考えれば、人々の文化的・社会的背景を理解した上で、言語と非言語によるコミュニケーションを使いこなしていく力が必要となる。

コミュニケーションの方法は、これまで重視されてきた会話や話し合いの他に、Eメールでのやり取りや様々な芸術活動を通しての表現など多岐にわたるようになってきたが、今回は最も基本となる人と人が出会った場合のコミュニケーションに重点を置くことにした。

価値観が多様化している社会の中で、子どもたちが自分の気持ちや意見をはっきりと、しかも他人への配慮を忘れずに表現でき、異なった意見にも耳を傾けることができるようになってほしい。

学習者の目標

- 知識** ● コミュニケーションの多様性に気づく。
- 技能** ● 他人の話しをよく聞き、自分の考えを相手に伝えることができる。
- 態度** ● 自分の個性を大切にしつつも、多様な価値観、表現方法を認め、相手への配慮を忘れずに表現しようとするすることができる。

対 象 小学校低学年以上

- 学 習 活 動
- 言葉のキャッチボール
 - 二人でお絵かき
 - 他己紹介
 - 「あいうえお」で伝えよう
 - 聞いて、聞いて！
 - アイコンタクト犯人探し（ウィンクゲーム）
 - うれしい言葉、すてきな言葉
 - ジェスチャーで伝えよう（伝言ゲーム）
 - 私が伝えたかったのは・・・
 - 無人島ゲーム
 - 演じてみよう
 - 方言だって「さすけね！」
 - いろんな人へのインタビュー
 - 校内放送やラジオ・テレビに出演しよう
 - 金魚鉢のディスカッション

活動を選ぶ際のポイント

「コミュニケーション」については、日々の学習活動の中でその能力が養われ、長い時間をかけて磨かれていくものであると考え、これをテーマとしたまとまった学習プランは作成しないことにした。学習プランをつくらなかったもう一つの理由は、コミュニケーション能力は、児童・生徒の発達段階や学校・学級によっても大きな差があるからである。

以下に掲載したコミュニケーションに関する活動例は、授業の導入で簡単にできるものから、数時間をかけてじっくり取り組めるものまで様々なものが含まれている。学級の実態や子どもたちの発達段階に応じて選び、日々の学習活動の中でコミュニケーション能力を高めるためのきっかけとして活用していただきたい。

言葉のキャッチボール

ねらい

体を動かしながら話すことによって、コミュニケーションの対象をはっきりさせ、伝え合う楽しさを体験する。

進め方

1. ボールまたはタオルを丸めたものなどを用意し、二人一組になってある程度距離を取って向かい合う。
2. ボールを投げる時に、相手に向かって何か話しかける。(相手に聞こえるように、ある程度大きい声を出すことが必要。)
3. 受け取った人は、相手に投げ返す時に何か話しかける。話しかける内容は、自由でもいいが「昨日したこと」、「夏休みの思い出」など話しやすい。テーマを決めてもよい。
4. 気持ちよくキャッチボール(会話)が続けられたかについて話し合う。

教師の 問いかけ例

- どんなふうに話すと、相手に伝わりやすかったか？
- 相手と気持ち良くやり取りできた時のボールの投げ方は、話し方と共通する部分があったか？

発展

2人組でできるようになったら、さらに人数を増やし、円になって活動を行うと、ボールを投げる(話しかける)対象を選ぶことができ、会話が発展する。ただし、人数が増えた場合には、同じ相手に続けて投げない、1度も受け取らない人がいないようにするなどのルールが必要。

二人でお絵かき

ねらい

言葉によらないコミュニケーションと、協力することの難しさに気づく。

進め方

1. 二人一組となり、鉛筆一本と紙一枚を用意する。
2. 一本の鉛筆を二人で一緒に持ち、話をしないで与えられた課題の絵を書く。(課題は、「家」、「木」、「車」、「花」などの簡単なもので、時間は3分程度)
3. 絵ができあがったら、書いている時に感じたことや上手く書けた(書けなかった)理由について話し合う。

教師の 問いかけ例

- 書いている時、どんな気持ちだったか。相手のことをどう思ったか？
- 書いている時、どちらかがリードしたか、しなかったか？
- うまく書けた(書けなかった)のはどうしてか？

他己紹介

ねらい

相手の話をよく聞き、そのことを他の人々にわかりやすく伝える。

進め方

1. 二人一組になり、お互いに趣味、自分の得意なこと、苦手なことなどを相手に伝える。
2. 全員の前で、自分の相手のことを紹介する。紹介する時には、その人の良さや特徴がみんなに伝わるよう表現を工夫する。
3. どのような紹介の仕方がよかったかについて話し合う。

- 教師の
問いかけ例**
- どんなふうで紹介すると、その人の良さや特徴がよく伝わるだろうか？
 - 多くの人の前で話す時には、どんなことを心がけたらいいだろうか？

発展

- 全員がお互いをよく知っている場合には、紹介される人の名前は伏せておき、聞いている人に当ててもらう。
- まったく知らない人同士で行う場合やクラス替えの直後などには、自己紹介の代用として行うことができる。

「あいうえお」で伝えよう

ねらい

相手に伝える時の声の大小や勢い、表情などの重要性を知る。

進め方

1. 二人一組になり、一人が提示された「怒り」「悲しみ」「うれしさ」などの感情や「依頼」「拒絶」などの状況を、「あいうえお」の音声と表情、ジェスチャーだけで表現してみる。（表情や視線、声の勢いなど非言語の要素がコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを知るために、あえて意味のない「あいうえお」の音声をここでは使う。）説明だけではわかりにくい場合には、最初に先生が模範演技をして見せる。その場合は、大げさに本気で感情を込めて実演することが大切。
2. もう一人が、その表現の様子を観察し、視線や声、表情などについて気づいたことを書きとめる。
3. コミュニケーションでの非言語の要素の与える影響について話し合う。

- 教師の
問いかけ例**
- 相手の感情は、どのようなところに一番表れていたか？
 - 言葉を使わなくても、気持ちを表すことはできるのだろうか？

発展

一人に「悲しい時」などの課題を出し、他の人がその表現を見て、その人はどんな気持ちなのか当てる。

聞いて、聞いて

ねらい

相手の話をよく聞くことがコミュニケーションの基本であることに気づき、聞く側の態度もコミュニケーションに影響を与えることを体験する。

進め方

1. 二人一組になり、一人がテーマに沿った簡単な話をし、一人は聞き役となる。(2分程度)
2. 聞き役の方は、「はい、そう、なるほど、うん」といった肯定的な相づちを入れながら話を聞く。
3. 2回目は、聞き役の方が「いや、ちがう、まさか、そうかな?」といった否定的な相づちを入れながら話を聞く。
4. 相づちの入れ方によって、話し手の気持ちや話し方はどう変化したかについて話し合う。



- 肯定的な相づちの時は、話し手はどんな気持ちで話していたか?
- 否定的な相づちの時は、話し手はどんな気持ちで話していたか?
- コミュニケーションが気持ちよく成立するために必要なことは何だろうか?

発展

聞き手の態度が肯定的な場合（話し手の目を見る、体をやや前かがみにするなど）と否定的な場合（話し手の方を見ない、後ろにそっくり返って腕を組むなど）で行う。

アイコンタクト犯人探しゲーム（ウィンクゲーム）

ねらい

視線だけで合図を送ったり、意思を伝えたりできることを経験し、アイコンタクトの重要性に気づく。

進め方

1. 「刑事」を一人決め、教室の外に出てもらおう。
2. 教室に残った人は大きな丸を作って座り、その中から一人「犯人」を決める。
「刑事」に教室へ戻って円の中央に座ってもらうが、「犯人」が誰かは知らせない。ここからは、「刑事」以外の人は話をしない。
3. 「犯人」になった人は、誰かの目を見てウィンクする。
4. 「犯人」と目が合ってウィンクされた人は、ピストルで打たれて死んでいくような演技をしながらその場に着く。「犯人」は「刑事」に気づかれないように様子を見ながらウィンクを送り、次々と人を倒していく。「刑事」はできるだけ早く「犯人」を当てなければならない。



- ウィンクを送られても気づかなくて、そのまま立っている子どもがいても、かまわない。慣れてくると気づくことができるようになるので、教師が「倒れなさい。」と指示をしたりせず、何度もゲームを経験させたほうがよい。打たれて倒れる演技が上手にできると、ゲームが盛り上がる。

6. アイコンタクト（ウィンク）がうまく相手に伝わった（伝わらなかった）時、どんな気持ちだったを話し合う。



- アイコンタクトは、普段どのような場面で、どのような気持ちで使われているだろうか?

嬉しい言葉、すてきな言葉

ねらい

言葉の持つ力を実感し、相手への配慮を忘れずに表現する。

進め方

1. 二人一組になり、一人が相手の人柄の良さやがんばりなどを誉める。(約30秒間)
2. 役割を交代し、同様に行う。(約30秒)
3. 誉められた時の気持ち、誉めた時の気持ちについて話し合う。

教師の ● 誉められた時は、どんな気持ちだったか？
問いかけ例 ● どういう誉め方だと相手はうれしいだろうか？

発展

「言われてうれしい言葉集」「言われていやな言葉集」などを作る。

ジェスチャーで伝えよう (伝言ゲーム)

ねらい

非言語のコミュニケーション方法の重要性と限界に気づく。

進め方

1. ある事柄について、全く言葉を使わずに、ジェスチャーと表情だけで相手に伝える。いくつか行う場合は、「携帯電話」「サンタクロース」「結婚」などのように、具体的なものから抽象的なものへ難易度を上げていく。
2. 正しく伝わったかどうか答えあわせをし、うまく伝わった (伝わらなかった) 理由を話し合う。

教師の ● ジェスチャーだけで伝えるのは、どのような点が難しいか？
問いかけ例 ● ジェスチャーだけでコミュニケーションをとった経験があるか。それはどんな時か？

発展

グループ対抗の伝言ゲームにする。

私が伝えなかったのは・・・

ねらい

言葉だけで相手に情報を伝えることの限界を知る。

進め方

1. 二人一組になり、一人が簡単なイラストや写真などを見てその様子を言葉で説明する。
2. その説明をもとに、もう一人が絵を書く。
3. 絵ができあがったら実際のイラストや写真と比べ、うまく描けていない部分があれば、その理由について話し合う。

教師の ● どのような説明がわかりやすかったか (わかりにくかったか)？
問いかけ例 ● うまく描けた (描けなかった) のはどうしてか？

無人島ゲーム

ねらい

自分が考えていること、感じていることを素直に表現する。他の人の合意を得ながら意見をまとめていく力をつける。

進め方

1. 「無人島で生活することになったとしたら」持っていきたいものを各自10個考え、一枚のカードに一つずつ書く。
2. 隣の人とペアになり、各自が自分の考えた10個のものを発表し、このペアとして持っていきたいものを5個に絞る。
3. このペアは壊さないで、2~3組でグループを作り、その中で同様の活動を行いグループとして持っていきたいものを10個に絞る。
4. 他のグループの結果を聞き、自分たちの結果と比べながら、合意するまでの経緯について話し合う。

教師の 問いかけ例

- 反対意見があっても、自分の考えを述べることができたか？
- 自分とは違う意見を聞いて、自分の考えが変わったことはあったか。それはなぜか？
- どんな発言に説得力があったか？
- グループ内で意見をまとめる時、話し合いをどのように進めたか？

発展

テーマを「遠足で行きたい場所」、「学芸会のテーマ」などにして、その選んだ5個にランク付けを行う。

演じてみよう（ロールプレイ）

ねらい

自分とは違った立場の役割を演じることにより、新たな価値観や表現方法に気づく。

進め方

1. 二人一組になり、指示された役柄を分担し、各自どのように演じるか考える。(2分程度)

例

- 「学校から帰ったらすぐに宿題をしなさいと言う親 vs 友達の家遊びに行きたい子ども」、「給食に嫌いなものが出た子ども vs 残さず食べさせようとする先生」

2. 演じてみる。
3. 役柄を交代し、再び演じてみる。
4. 自分とは違った立場（大人や先生の役）を演じてみて気づいたことについて話し合う。

教師の 問いかけ例

- 自分とは違う立場の人の役を演じてみて、どう思ったか？
- どのようにすれば、お互い分かり合えるだろうか？

発展

- 同じ役割設定で、最後に和解するように指示された場合と、対立したまま終わるよう指示された場合の二つを演じてみて、結果の違いを導いた要因を考える。
- 二つの役柄の間に、仲裁する第三者（兄弟や友達などの役）が登場させる。

方言だって「さすけね！」

ねらい

方言の持つ表現力や特性について理解する。

進め方

1. 人の様子や気持ちや考えを表すのに使われる方言を集める。

例

- 会津弁の「おんつあげず」は標準語で「ばか」
2. その言葉を使った短いロールプレイを考え、演じてみる。
 3. 標準語で演じた場合との違いについて話し合う。

- 教師の** ●同じ事柄を標準語で言った時と方言で言ったときでは、違いがあるか？
問いかけ例 ●日常生活の中で、標準語と方言を使い分けているか。それはどんな時か？

発展

同じロールプレイを、様々な地方の方言で演じてみる。

いろんな人へのインタビュー

ねらい

相手に応じたコミュニケーションの取り方を身につける。

進め方

1. インタビューする相手を複数決める。この時に、いろいろな立場や年齢の人が含まれるようにする。(友達、家族、先輩、校長先生などの目上の人、小さな子供、お年寄、できれば全く知らない人や在住外国人なども)
2. インタビューの内容を決める。
3. インタビューをし、その様子をテープに録音する。
4. テープを聞きながら、適切な表現や対応ができたかを話し合う。

- 教師の** ●誰にインタビューした時が一番難しかったか(易しかったか)それはなぜか？
問いかけ例 ●どのようなことに気をつけながらインタビューを行ったか？

発展

テレビやラジオのインタビューを録画・録音し、プロのインタビューの仕方と自分たちのとを比較する。

校内放送やラジオ・テレビに出演しよう

ねらい

不特定多数に対してのコミュニケーションの方法について学ぶ。

進め方

1. 校内放送やテレビ・ラジオの出演の機会を見つける。
2. その番組で、どのようなことを、どのような方法で伝えるのか話し合い、練習する。
3. 出演した番組を録画・録音したのを見たり聞いたり、または、その番組を見たり聞いたりした人から感想を聞いたりして、自分たちのねらい通りに表現できたかについて話し合う。

教師の
問いかけ例

- 自分たちの思い通りの番組に仕上がったか？
- この番組で一番伝えたかったことは何か。それはうまく伝わったと思うか？
- 見ていた（聞いていた）人たちの印象に一番残ったのは何だったか？
- 不特定多数を相手にしてのコミュニケーションの難しい点は何か。一対一の時とはどのように違うのか？

発 展

その番組の他の出演者やプロデューサーからアドバイスをもらう。

金魚鉢のディスカッション

ねらい

心の通じ合う積極的なコミュニケーションの方法について学ぶ。

進め方

1. クラスを2つに分け、ひとつのグループは円を作って座り、ある簡単なテーマについてディスカッションをする（5分程度）。ディベートではないので、話し合いをしている者が同じ意見になって合意を重ねていくことになってもよい。

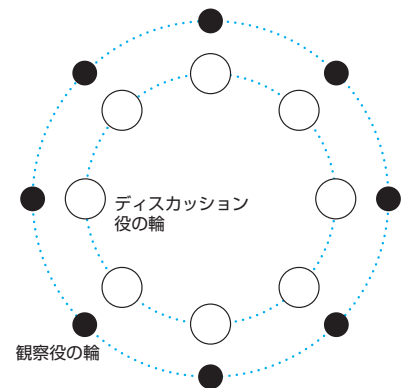
例

- 「学校での昼食は弁当がいいか、給食がいいか。」「学校祭でのクラスの発表（模擬店など）は何かがいいか。」など。
2. 残りのグループは、ディスカッションをしているグループの外側に立って、その様子を観察する。
3. ディスカッションするグループと観察するグループを交代し、もう一度同様に行う。
4. 観察をして気づいたことをもとに、積極的なコミュニケーションについて話し合う。

教師の
問いかけ例

- どのような時にボディランゲージが用いられたか？
- 聞く時の態度はどうだったか？
- 話すときの速さや声の調子はどうだったか？

金魚鉢ディスカッション図



発 展

自分がディスカッションしている様子をビデオにとって、自分自身の姿を振り返る。

主な
参考文献

地球市民を育む学習（明石書店発行）
みんなとの人間関係を豊かにする教材55（小学館発行）

